

黒川能の里王祇会館 - 展示解説文（大地踏み）

春日神社の王祇祭の神聖な儀式のひとつに、大地踏みがあります。神社の上・下座の当屋から選ばれた、通常5歳くらいの少年が踊る踊りです。

上座を代表する男の子は、黒いヘッドバンドと黒いローブが付いた金の頭飾りを着ています。一方、下座を代表する男の子は、長い上着で覆われた赤いローブと、赤いヘッドバンドが付いた黒い頭飾りを着ています。

大地踏みは、反閤（魔法の力があると信じられている特別な足音）と呼ばれる神道の儀式に基づいています。それは地球の精神を落ち着かせ、鎮圧するために行われます。日本の旧暦の正月である2月1日と2日に王祇祭が行われるため、来年の平和と豊作を願う儀式でもあります。

上座の少年は、4つの基本的な方向を示す振り付けの儀式で地面を踏み、下座の少年は、5つの要素を表す対角線の方法を踏みます。

王祇祭では、2月1日に各座の当屋に1回、翌朝に1回、両座のメンバーを対象に神社の能の舞台で1回の計3回の儀式が行われます。